

「青少年教育スキルアップセミナー（青少年教育基礎研修）」

★事業の概要★

事業のねらい

1. 青少年教育施設職員に求められる資質・能力を高める。
2. 青少年の現状と課題、青少年教育施設の意義と役割などについて理解を深める。

期 日

平成27年4月25日（土）～ 4月26日（日）

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

国公立・財団等の青少年教育施設職員 青少年教育に係る指導員やリーダー等
都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18歳以上）

参加者数：参加募集人数

36名（全日程参加30名、部分参加6名）：25名

講 師

鈴木 眞 理 氏（青山学院大学 教授）
松 橋 義 樹 氏（国立青少年教育研究センター 研究員）
大 島 峰 夫 氏（北海道社会教育委員連絡協議会 会長）
瀬 川 謙二郎 氏（NPO 法人ふらの演劇工房 理事長）
国立大雪青少年交流の家職員

日 程

		12:30 13:00 13:15		14:30 14:45		16:00 16:15		17:20	19:00	22:00	
4/25 (土)		受付	開会式	①講義「青少年の現状と課題について」	休憩	②講義「学校教育と社会教育の関係について」	休憩	③講義「家庭・地域の教育力と課題について」	夕食入浴	情報交換会	就寝
		7:15	7:30	9:30	11:00	12:30	13:30	14:30			
4/26 (日)	つどい	朝食	④演習「体験活動の意義と地域連携について」		⑤演習「人間関係を円滑にするコミュニケーショントレーニングの実際」	昼食	⑥トークセッション「これからの青少年教育に期待すること」	閉会式			

★プログラム紹介★



講義①「青少年教育の現状と課題について」
 青少年の取り巻く「時代性」「地域性」及び「体験活動」の状況を、データを基に解説。改めて、青少年の現状と課題について学んだ。



講義②「学校教育と社会教育の関係について」
 社会教育と学校教育それぞれの状況を、例題を交えて学び、関係性について考えた。その中で改めて「何のための社会教育」なのかを学んだ。



講義③「家庭・地域の教育力と課題について」
 子供にとって大切なことは学校教育を通じて、系統的・計画的な学習をすることと、学校以外で日常生活での自主的・主体的体験が大切であることを学んだ。



演習①「体験活動の意義と地域連携について」

前段の講義を踏まえ、青少年教育について理解を深め、地域におけるそれぞれの役割や、できることを発表した。その中で機構の「体験の風をおこそう」運動を紹介し、運動の普及を依頼した。



演習②「人間関係を円滑にするコミュニケーショントレーニングの実際」

道内の青少年教育施設におけるコミュニケーショントレーニングの実践を紹介し、人間関係を円滑にするための手法を、それぞれの対象や場面・目的に照らし合わせた解説を聞きながら学んだ。



トークセッション「これからの青少年教育に期待すること」

2名の講師の方を招き、それぞれの立場から「青少年教育に期待すること」をテーマに話を伺い、その後、参加者との質疑応答では、多くの助言や励ましをいただいた。

企画・運営のポイント

年度初めの研修ということもあり、国立青少年教育施設として学校教育と社会教育の現状と課題について、もう一度基本から学べる内容とし、それぞれの地域性について考えてもらうことができた。その中で、機構が行っている「体験の風をおこそう」運動や、各青少年教育施設が行うコミュニケーショントレーニングを紹介し、すぐに現場でも活用できる技術を共有した。

また、機構が進める「体験の風推進員」を募り、全道で体験活動を展開する仲間作りの場を提供した。

事業を終えて(成果と課題)

施設業務運営委員や機構の青少年教育研究センターの研究員を講師として招き、「新しい公共」型の事業運営を行うことができた。また、募集人数を上回る参加者が集まり、参加者のニーズに応える内容となった。

一方で、参加者は経験値の差があり、それぞれのニーズに対応できるプログラムをどのように工夫していくかが今後の課題である。

今後の方向性

年度初めの青少年教育施設支援や指導者養成のための基礎的研修として定着しつつある。国立青少年教育施設としては、正確で重要な事項をこの時期の教育事業として発信していく。